

## 復活祭

## パック(Pâques)・パーセン(Pasen)

## イースター

復活祭は、キリストが十字架に張り付けられて処刑され、亡くなって3日後に復活したことを祝うキリスト教の最大のお祭りです。復活祭は移動祝日で、春分の日の後に来る最初の満月の次の日曜日に当たり、3月後半から4月後半、とその年により復活祭の日付が変わります。2018年の復活祭は、4月1日(日)です。翌月曜日も休日ですので、買い物には気をつけてくださいね。

ベルギーの今年の復活祭休暇(春休み)は、3月31日(土)から4月15日(日)までの2週間です。かつては、この時期にシーズン最後のスキーに出かける家族が多かったですが、近年の異常気象で雪が少なくなり滑りにくくなってくると、スキーをやめて海へ出かける人も増えてきました。今年の春休みの時期に、フランスやスイスではまだ雪があるでしょうか?こればかりは自然現象なので予想はつきませんね。雪がないからとホテルをキャンセルしては、違約金を取られるだけなので、皆さん現地に赴き、日なたぼっこをしながら読書したり、山道の散歩などを楽しんで、休暇を過ごしているようです。

さて、休暇に出かけなくても、子どもたちと復活祭のお祭りを楽しみましょう。カーニバルのマルディグラを最後に、その後40日間の節制をした信者の家庭では、教会での



ミサを終えた後、家族が集まって昼食会を開催します。この日のメインは、春をイメージして子羊やアスパラガスを使った料理です。デザートには、バタークリームや生クリームで型どった鳥の巣をアレンジしたケーキや、羊の形をしたバニラアイスクリームにいちごやフランボワーズのソースをかけて食します。このソースは、いけにえに



捧げた子羊を解体する時に  
出る血をイメージしています。  
そして、食事の後は、  
庭や家の中に隠された卵形  
のチョコレート探しです。

復活祭は、春の到来を祝う日でもあり、春を象徴する動物の誕生として、ひよこやうさぎ、卵のチョコレートが出回ります。もちろん、卵がかえることとキリストがよみがえったことを結びつけてもいます。現地の幼稚園や小学校では、春休み前の工作として、卵を入れるカゴを作ったり、卵の殻を使って小さな植木鉢として、春の草を植えて持って帰ったりします。

チョコレートの国ベルギーでは、2月のバレンタインデーにもチョコレートを食べたのにとびっくりしないでくださいね。ベルギー人は1人年間5kgのチョコレートを食する、世界でもチョコレート消費量が多い国です。豊富なブランドのベルギーチョコレートを食べながら、春の到来を祝いましょう。